

近つ飛鳥博物館と風土記の丘見学記

大阪歴史博物館 村元 健一

平成26年7月27日、小雨がばらつく生憎の天気でしたが、緑豊かな大阪府立近つ飛鳥博物館と近つ飛鳥風土記の丘を訪ねました。

近つ飛鳥博物館は、「日本古代国家の形成過程と国際交流をさぐる」をテーマにした博物館で、古墳時代を取り扱っています。また、建物が安藤忠雄氏の設計であることも有名です。まずは館内で学芸員の廣瀬時習さんから「近つ飛鳥」と呼ばれる博物館周辺地域の歴史、博物館の概要について解説いただきました。展示場では常設展に加え、夏季企画展「大阪平野はむかし、海だった—海に生きたおおさかの古代人—」が開催されており、担当学芸員の飯田浩光さんによる展示解説を聞くことができました。

博物館見学の後は、風土記の丘の散策です。ここは6世紀後半を中心に築かれた大規模な群集墳・一須賀古墳群の中心部を公園化したところです。博物館も古墳群の一角にあり、建設工事で新たに発見された古墳の石室は、現地か、付近に移築して保存されています。暑さとバスの発車時刻の関係で、見学する古墳は代表的なもの数基としました。時代により横穴式石室の形や石の積み方などが異なっています。また敷地内には3キロほど離れた寛弘寺古墳群から巨大な横穴式石室が移築されており、石室の多様な姿を見ることができました。

今回見学した博物館の展示資料や遺跡は、いずれも古墳時代のものが中心です。大阪歴史博物館の展示が7世紀の飛鳥時代の難波宮以降を取り扱っていますから、その前の時代の大阪の歴史を知る上で、興味深い見学になったのではないのでしょうか。企画・引率された幹事の皆様、お疲れさまでした。

今回はご同行いただいた、大阪歴史博物館学芸員の村元健一氏に特別に紀行の寄稿をお願いしました。暑い中ではありましたが、一須賀古墳群についての説明と個別の古墳について懇切丁寧な解説していただき、ありがとうございました。

— 友の会幹事 —



村元学芸員による古墳の解説



近つ飛鳥博物館での集合写真

「根来寺・粉河寺・華岡青洲の里バス見学会」に参加して

木下 文彦



根来寺大塔

薄曇りのなか9月15日(月)8時30分定刻、大阪歴史博物館前を出発しました。

祝日のためか車の混雑もなく、バスガイドさんの軽やかな途中案内を聞きながら1時間余りで根来寺に到着しました。

当地は晴れておりミンミン蝉の声と赤とんぼが舞う陽気でした。

大傳法堂にて森大洗師より根来寺の由来を伺う。覚鑿上人が西暦1126年にこの地に神宮寺を建て開創された。高野山に真言密教の真髓を伝えるため伝法院を建立し、教学の興隆をはかったが後に高野衆徒と不和を生じ、当地に移り生涯を閉じられた。その後、高野山から大伝法院を根来に移され、新義の根来道場となる。大いに栄え堂塔2700寺領72万石と云われるまでになり、警護のため僧兵の勢力も強大になった結果、西暦1585年秀吉の根来攻めに遭い、大塔・大師堂など残すのみで全山焼き払われた。現在の建物は紀州徳川家の外護で復興したものとのこと。

国宝大塔は真言密教の教義を形にし

たもので、我国最大の木造多宝塔。戦乱の弾痕が残っている。光明真言殿は覚鑿上人(興教大師)の尊像が安置されている。

四季折々の桜・青葉・紅葉が楽しめる広大な境内を後にして、JA運営の市場<めっけもん広場>に寄りました。

各自それぞれ、目当ての柿・ぶどう・イチジクなど求めた。

次の目的地の華岡青洲の里に12時半頃到着し昼食の後、青洲が暮らし数々の偉業を成した春林軒の見学。母と妻の献身的な協力の下、マンダラケを主成分とする麻醉薬「通仙散」を完成させ、西暦1804年世界初の乳ガン摘出手術に成功。その医術は全国に広がり我国の外科医学の発展に多大な貢献。

また、米シカゴ国際外科学会付属の榮譽館にも祀られているとのこと。NHKのドラマでしか、その存在を知らなかった私はその偉業を改めて知りました。



春林軒

13時45分出発。粉河寺には14時過ぎ到着。

金剛力士像に守られた大門を潜ると紀の川から爽やかな風が吹きわたる。本堂にて逸木師からお寺の歴史を伺う。西暦770年獵師・大伴孔子古により開創。一夜庵に泊ったお礼に童行者が千手観音像を刻み立ち去る。この千手観世音菩薩がご本尊で永久秘仏となっている。西国第三番札所厄除観音。盛時は七堂伽藍、寺領4万余石を有していたが、秀吉の兵乱に遭い焼失。その後、紀州徳川家の庇護と信徒の寄進で諸堂が完成される。本堂の下の石組庭園は国指定の名勝。16時半に帰着しましたが、皆さんともご一緒でき、充実した楽しい一日でした。



粉河寺本堂前での集合写真

「続・熊野街道を歩く(第6回)」一鶴原(泉佐野市)～新家(泉南市)一

前回に続き、今回も大阪歴史博物館学芸員の大澤先生に引率・解説をお願いしました。(H27.1.17実施)

南海本線鶴原駅に集合。会員16名(幹事2名含む)が参加されました。JR阪和線新家駅まで約6kmの行程で、先生からは街道にある王子跡や地蔵・道標と大阪夏の陣で大阪方で討死した武将・豪族の碑を含め、興味深い説明を受け、街道の痕跡と大阪夏の陣の激戦地であったことを認識できた一日でした。

[今回も紀行の寄稿をお願いしておりません。行程の紹介と写真掲載のみとしております。-友の会幹事-]

【今回の主な見学先】

- ◎佐野王子跡……王子社は春日神社(泉佐野市内)に合祀されている。
- ◎石の道標……市場町付近・長滝付近の道標
- ◎安松八丁畷の石地蔵……和泉砂岩の一石。正平18年(1363)に建立。石造のほこらに安置
- ◎塙団右衛門の五輪塔……豊臣方に属し大阪夏の陣で討死した武将の碑。
- ◎榎井王子跡……民家の庭にある。大正4年に日枝神社に合祀された。
- ◎奥家住宅……熊野街道沿いで1600年頃とされる豪農の住宅。国の重要文化財に指定。
- ◎淡輪六朗兵衛の宝篋印塔……大阪夏の陣で浅野和歌山城主と戦い討死した淡輪の豪族。



佐野王子跡



道標(市場町付近)



道標(長滝付近)



安松八丁畷の石地蔵



塙団右衛門の五輪塔



榎井王子跡



奥家住宅



淡輪六朗兵衛の宝篋印塔



「京都・聖護院周辺」の見学会に参加して

濱田 千代子

平成26年11月17日(月)に友の会の皆さんと京都・聖護院周辺のお寺巡りと紅葉狩りに参加しました。なぜか桜の季節と違い、友達と「行こうね」と毎年言いながらも、この数年気が付くと師走の慌ただしさのなかにはいたので、良い機会と楽しみにしていました。



金戒光明寺 御影堂

黒谷の金戒光明寺や真如堂は初めて訪ねたのですが、紅葉は少しまだ早いかなと何方かが仰っているのを聞きながら、金戒光明寺の方丈北庭に行くと、もう紅葉は木洩れ陽の中で鮮やかで、冷たい空気を胸いっぱい吸い込みながら『大阪城の銀杏も綺麗だけどやっぱり、京都はいいな…』と、つくづく思いました。

真如堂では、大観経曼荼羅が公開されており、お寺の係りの方の解説を聞いて、とても印象に残ったお話がありました。

それは曼荼羅に描かれているインドのお話で、生まれてくる王子がいずれ貴方を殺すだろうとお告げを受けた王様が、王子を冷遇してしまいました。成人した悲運の王子は王様を恨み幽閉して食事を与えず王様を亡き者にと謀るも、母である王妃が密かに王様に食事を運んだとのこと。その後自らの行いを悔いた

王子は偉い僧侶の教で、人は行いにより九品に分けられ、行いを日々の修行で正すことにより、人は極楽浄土で厚遇を受けると諭されます。

因みに私たちのような一般の者は中品の下位だと説明され、『成程、そんなもんだ』と、妙に納得したりしました。実際その修業は曼荼羅に分かり易く描かれていましたが、今覚えているのは自身の心映えを美しくする為に、山や自然を観るといふものがありました。

11月の中旬から最早2か月あまりが経ち、こんな風に曼荼羅の物語が心に残るのは、恐らく人生の秋にいる自身の此れまでを振り返り、もう一度気持ちを込めて生きなさいと、仏様が紅葉の京都に誘って下さったのかとふと思いました。まずは日々感謝の気持ちを持ちながら暮らせますように年の初めに念じました。

ただ九品の中の下なので…どれだけ続くことか心配ではありません。



真如堂 本堂



真如堂 三重塔前での集合写真

今回は会員の濱田千代子さんに紀行の寄稿をお願いし、今年1月中旬に届けていただきました。

現地での案内は現地のボランティアガイドをお願いし、詳しく説明を受けました。また、散策のあと、聖護院御殿荘で食事し、歓談のひと時を過ごしていただきました。

— 友の会幹事 —

「続・熊野街道を歩く(第5回)」一久米田(岸和田市)～鶴原(泉佐野市)一

今回も大阪歴史博物館学芸員の大澤先生に引率・解説をお願いしました。(H26.12.13実施)

JR阪和線久米田駅に集合。会員21名(幹事4名含む)が参加されました。南海本線鶴原駅まで約14kmの行程で、先生からは街道に現存する神社・王子跡・地蔵や見逃しそうな道標等を含め、懇切に説明を受け、これまでさまざまな人々がさまざまな願いをこめて歩いた祈りの道を実感した一日でした。

[今回も紀行の寄稿をお願いしておりません。行程の紹介と写真掲載のみとしております。-友の会幹事-]

【今回の主な見学先】

- ◎積川神社遥拝鳥居……熊野古道沿いにあるため、熊野参拝をする皇族・公家が勅願社である同社を遥拝する場所になった。
- ◎半田一里塚……目的地に着くまでの距離の目安で、当時の形をほぼ残す府下唯一のもの。
- ◎地蔵型道標……中央小学校付近
- ◎地蔵型道標……石才付近
- ◎積善寺城跡……永禄元年(1558)、根来衆が岸和田の三好氏との戦いの時に先陣とした砦。
- ◎南近義神社……もと丹生神社の分社。雨乞い神。明治40～42年にかけて、南近義地域の神社(鞍持・近木王子も含め)を合祀し、南近義神社に改められた。



積川神社遥拝鳥居



半田一里塚



地蔵型道標(中央小学校付近)



地蔵型道標(石才付近)



積善寺城跡



南近義神社での集合写真

連載

「浪花百景」

～今宮蛭子宮 浪速区恵美須西～

第21回

千倉 康由

創建は西暦600年、聖徳太子が四天王寺建立に当たり、同地西方の鎮護としてお祀りされたのが始めとして伝えられています。

鯛に釣竿を持つ戎様は、そのお姿から判るように、もともと漁業の守り神で、海から幸をもたらす神を象徴しています。平安後期には「浜の市」がたち、市の守り神としても祀られるようになり、やがて貨幣経済の発展とともに、商売繁盛・福德円満をくまなく授けて下さる神として厚く信仰されるようになりました。

江戸期に入ると十日戎の行事が始まり、元禄期には今日と同じような祭礼となり、当時の記録・地誌等に盛大な様子が伝えられています。

祭神が戎として信仰を集めたのは、京都・八坂神社の蛭子社から分祀されたことに始まると言われている。

(八坂神社の氏子が今宮に移り住み祀った)



大阪歴史博物館蔵

大阪歴史博物館の特別展 大坂の陣400年

「大坂—考古学が語る近世都市—」

今年、大坂にとって大きな節目となった大坂夏の陣から400年目に当たります。豊臣秀吉が建設し、大坂の陣を経て「天下の台所」として復興を遂げた近世都市・大坂のようすは、およそ30年にわたる発掘調査の積み重ねによって明らかになってきました。本展覧会では、近世大坂に関わる代表的な出土品を一堂に集めて陳列します。

展示の前半では、大坂城が建設される以前の時代からはじまり、豊臣秀吉による大坂城と城下町の建設、徳川期の都市再建と発展の歴史を、時代を追って展示します。展示の後半では、華麗な桃山陶磁や貿易陶磁、日々の暮らしに用いられた多様な品々、大坂での「モノづくり」に関わる出土品を展示し、近世大坂の繁栄ぶりを紹介します。合わせて、館藏品を中心に、古絵図や古文書、絵画作品など関連資料を陳列し、近世都市・大坂の歴史と文化・生活・産業のありさまを、よりビジュアルに紹介します。



方形桐文金箔瓦 16世紀
大坂城跡出土
大阪歴史博物館蔵

平成27年4月18日(土)～6月8日(月)

- ◎休館日／火曜日(ただし、5月5日(火・祝)は開館、5月7日(木)は休館)
- ◎開館時間／午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時まで)※ただし、入館は閉館の30分前まで。
- ◎会場／大阪歴史博物館 6階 特別展示室
- ◎主催／大阪歴史博物館・公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所・読売新聞社

●大阪歴友 Vol.27号(大阪歴史博物館友の会)平成27年3月9日発行
 ●編集・発行 大阪歴史博物館友の会 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
 大阪歴史博物館 気付
 TEL.070-5663-2662 (携帯電話)